



きのした いきち
木下 伊吉 氏

生年月日 大正 6 年 12 月 18 日生

住 所 田辺市秋津川

大正 6 年 (1917 年) 12 月 18 日、西牟婁郡秋津川村 (現田辺市秋津川) で、木下虎右衛門、こいし夫妻の三男として生まれる。

昭和 7 年 (1932 年) 3 月、秋津川高等小学校を卒業後、大阪で会社勤めをしていたが、その後、兵役に就き、終戦除隊とともに秋津川村へ戻る。約 2 年間、村議会議員を務めた後、秋津川村農協 (現紀南農協) に勤務、木炭専任出荷主任として勤務の傍ら、自ら製炭者を巡回し、良質炭の生産や良心的な選別、包装の指導などに日夜をいとわぬ献身的な努力により、当時の県営木炭検査の最優秀地として名をはせるようになった。

その後、代替燃料の進出に伴い木炭が年々減少する一方、流通面で価格の競合を余儀なくされていた状況を憂慮し、昭和 42 年 (1967 年) に和歌山県木炭移出協議会を設立させる。

また、木炭需要の拡大を図るため紀州備長炭の由来を研究し、その良さをアピールして販路の開拓を図るため、昭和 43 年 (1968 年)、全国で初めて東京において紀州備長炭のテレビコマーシャルを放映したほか、東京や中京の市場関係者と交流を重ね、生産者代表として折衝を行う中で、備長炭を使用する料理店に「紀州備長炭使用の店」の木製看板を作成配布するなどの工夫により、紀州備長炭の名声と地位の確立に努めた。

一方、県の特産品であり芸術品ともいわれる備長炭の製炭技術の保存と後継者の育成を図るため、昭和 45 年 (1970 年) には「紀州備長炭技術保存会」の結成に尽力。昭和 47 年 (1972 年) 12 月に紀南農協を退職後は、自ら備長炭を生産、窯の構築技術や製炭技術の伝授に努めている。

こうした氏の製炭技術が認められ、昭和 52 年 (1977 年) 4 月には第 28 回全国植樹祭お手まき会場において、天皇、皇后両陛下に「紀州備長炭窯出し風景」をお見せする機会に恵まれ、木炭界の栄誉のため、1 年数カ月前から窯構築の構想を練り、連日連夜寝食を忘れて取り組んだ結果、備長炭の歴史に金字塔を打ち立てる偉業を果たした。

昭和 62 年 (1987 年) には氏の発案による炭の楽器“炭琴”を完成させるとと

第 27 回 (平成 8 年)

もに、平成 4 年 (1992 年) 2 月には「田辺市木炭生産者組合」を結成、組合長に就任するなど、今なお炭に対する熱意を燃やし続け、紀州備長炭の技術と伝統を後世に伝えるため奔走されている。

(略 歴)

昭和 7 年 (1932 年) 3 月	秋津川高等小学校卒業
昭和 9 年 (1934 年) 1 月	大阪セキセイ株式会社入社
昭和 14 年 (1939 年) 12 月	兵役
昭和 21 年 (1946 年) 4 月	秋津川村議会議員
昭和 23 年 (1948 年) 8 月	秋津川農協勤務
昭和 43 年 (1968 年) 8 月	紀南農協上芳養支所長
昭和 48 年 (1973 年) 1 月	自営 (木炭生産、指導、販売)

昭和 48 年 (1973 年) 1 月	和歌山県木炭協会理事 紀州備長炭技術保存会理事 西牟婁木炭協会理事
昭和 49 年 (1974 年) 4 月	秋津川公民館長
昭和 53 年 (1978 年) 4 月	秋津川町内会長
平成 4 年 (1992 年) 2 月	田辺市木炭生産者組合長

(受賞歴)

昭和 53 年 (1978 年) 9 月	農民賞受賞
平成 2 年 (1990 年) 5 月	日本特殊林産功労者表彰受賞
平成 5 年 (1993 年) 4 月	和歌山県政功労表彰受賞